

先生の服装の実態とその歴史的変化について

—岐阜市における過去40年の例から—

多治見章子（ファッション情報論）

はじめに

私たち女性にとって、いつまでも若くそして美しいことは永遠の願いといっても過言ではありません。顔の造作のよしあしというよりは、心の豊かさが必要なのです。自分なりに美しく装って着心地のよい服装を身につけて外出するときの喜びは、女性ならではの醍醐味なのです。「きょう、ぼくの先生、まっかなセーターに黒いスカートですてきだったよ」「うちの先生も、すてきな洋服だった」など、女の先生に対する子どもの関心は高くまた、その審美眼もなかなかのものです。フレッシュな感受性を持っていることにも驚かされます。子どもは、自分の母親に対してもいつまでも若く美しくあってほしいという願いを抱いているものですが、同じように担任の先生に対しても、きれいな先生、清潔さいっぱいの先生が理想的だと思っているのではないのでしょうか。最近の女性教師には、すてきなセンスで装っている人がぐっと増えてきました。ミニよし、ミモレよし、ショーツよし。TPOを心得て、それぞれの場にふさわしい服装を自由に着こなすことは肝要です（杉山1975）。では実際に先生の服装がどのような意識のもとに着られているのでしょうか。またこの40年にわたる変化があるとすればどのようなものであったのでしょうか。さらに将来はどのようになっていくのでしょうか。

こうした問題を明らかにするために私は、先生の服装についての調査を教員対象者に実

施しようと試みました。実際にインタビューによる聞き取り調査をしましたが、先生の年齢層の違いや地域による違いに戸惑い、調査方法を、本学の教育実習生を対象にアンケート調査をすることと、幼稚園で30年間教員生活を送られたS先生と小学校で35年間教員生活を送られたN先生にしばらくインタビューすることによって、服装から見た「先生」観を考察することにしました。

調査方法および調査内容

本報では表1、表2の実習生概況のように平成6年度491名、平成7年度512名を対象に、5月末から7月の期間に実習を行なった学生の実習終了後にアンケート調査を実施しました。回収者は平成6年度350名、平成7年度427名でした。また、幼稚園・小学校での教員経験者S先生とN先生にインタビューによる聞き取り調査を行ないました。

表1 平成6・7年度中学校での実習概況

専攻	6年度		7年度	
	在籍	実習者数	在籍	実習者数
被服	139	52	108 57	32 7
生活デザ	83	21	75	12
食物栄養	213	51	161	42
教育英語	22	21	29	22
合計	457	145	430	115

※被服の7年度は服飾（上段）、厚生（下段）に分かれた。

表2 平成6・7年度小学校・幼稚園での実習概況

平成6年度						平成7年度					
専攻	実習者数	小学校		幼稚園		専攻	実習者数	小学校		幼稚園	
		指定	指定外	指定	指定外			指定	指定外	指定	指定外
音楽	27	8	19	7	19	音楽1	25	6	19	6	8
国語	24	7	17	2	4	音楽2	25	3	22	6	16
体育1	29	10	19	5	7	国語1	25	8	17	8	5
体育2	29	6	22	1	5	国語2	25	6	19	5	5
美術	6	2	4	0	2	体育1	26	4	22	1	7
国際	10	4	6	5	1	体育2	26	10	16	3	8
心理	44	11	33	1	6	美術	6	3	3	2	4
情報1	12	5	7	0	0	国際	11	5	6	2	0
情報2	13	2	11	0	2	心理1	26	7	19	6	5
幼教	152			33	119	心理2	26	7	19	3	4
合計	346	55	138	54	165	情報1	33	12	21	10	8
						幼教	143			36	107
						合計	397	71	183	88	177

先生の服装についてのアンケート 平成6年度

____ 学科 ____ 専攻クラス ____ No. ____ 氏名 _____

1. 実習校名()県()市・郡()学校 クラス数()
 実習期間 ____ 月 ____ 日～ ____ 月 ____ 日

2. 実習校の先生の人数 約 男 ____ 名 女 ____ 名

3. 家族の人から服装について何かアドバイスを受けましたか。
 (誰からも記入してください。)

4. 実習前のオリエンテーションで、服装についてどのような
 アドバイスを受けましたか。

5. 教科によって服装が違いましたか。また、その違いはどのよ
 うに感じましたか。(例えば、音楽・体育・理科・英語など)

先生の服装についてのアンケート 平成7年度

____ 学科 ____ 専攻クラス ____ No. ____ 氏名 _____

1. 実習校名()県()市・郡()学校 クラス数()
 実習期間 ____ 月 ____ 日～ ____ 月 ____ 日

2. 実習校の教師数 約 男 ____ 名 女 ____ 名

3. 実習校の地域性
 ・都市部 ・中間部 ・郡部 (いずれかに○を)

4. 家族の人から服装について何かアドバイスを受けましたか。(化粧、
 ヘアスタイル、アクセサリ等についても具体的に書いて下さい)

5. 実習前のオリエンテーションでは服装についてどのような
 アドバイスを受けましたか。(誰からも記入してください)

6. 学校の先生は、年齢によつての服装のちがいはどのようにでしたか。

	男性教師	女性教師
若手		
中堅		
年配		
管理職		

7. 女性の先生の化粧・ヘアスタイル・アクセサリについて感じたことを書いてください。

8. 教師とサラリーマン(サラリーウーマン)の服装の違いはあると思いますか。あるとしたら気がついたことを書いてください。

9. 教育実習のために、身の回りで新調したものがありませんでしたら書き上げてください。

10. あなたが教育実習をした時、服装について心がけたことはどのようなことですか。

11. 他の実習生と自分の服装について、比較してどのように感じましたか。

12. 実習期間中、あなたの服装はどのように変化しましたか。あるいは、変化しませんでしたか。

13. あなたが、今までにお世話になった先生の服装イメージを思い出して書いてください。(幼稚園・小学校・中学校時代)

14. 最後に、これからの先生の理想的な服装のイメージを書いてください。

6. 実習をして教師の服装及び、園児の服装について書いて下さい。(実習をした所のみの記入で結構です)

(1)【中学校へ実習に行った方】

教科によって服装が違うと思いましたが。また、その違いはどのように感じましたか。

(2)【小学校へ実習に行った方】

男性教師の服装

女性教師の服装

(3)【幼稚園又は保育園へ実習に行った方】

先生の服装 ・私服 ・ユニフォーム (いずれかに○を) ユニフォームと答えた方はユニフォームの色とデザインを書いて下さい。

園児の服装 ・私服 ・決まっている (いずれかに○を) 私服の場合どんな格好をしてくるか具体的に書いて下さい。

決まっていると答えた方はその色とデザインを書いて下さい。

7. 教育実習のために、身の回りで新調したものがありませんでしたら書き上げて下さい。(理由も記入して下さい)

8. 教育実習期間中、服装についてどのようなことに心がけましたか。また、始めと終わりではどのように変化しましたか。

9. 先生らしい服装とはどんな服装だと思いますか。

結果および考察

〔1〕中学校での教育実習

家族の人から服装についてのアドバイスは誰からどのようなことを受けたのかというを受けていないという人も54.38%と半数をしめたが、受けた人の場合、アドバイス者は、ほとんどが母親からという人が多く、次の点についてのアドバイスがみられました。(以下「」内の表現はアンケートで書かれた表現をそのまま記すことにする)

- 「教師に見える服装・先生らしい服装」
- 「清潔感のある服装」
- 「きちんとした服装」
- 「落ち着いた格好」

具体的に、「マニキュアはしない」「ピアスはしない」「化粧は薄く」「スリット入りのロングタイトスカートははかない」「アクセサリはつけない」「髪の毛は黒くして」等でした。

では実際に実習前のオリエンテーションではどのようなアドバイスを受けたのかを調べてみると、アドバイス者は、ほとんどの場合、教務の先生でしたが教頭先生や校長先生からアドバイスを受けた場合は7.0%ありました。また、中学での実習担任学年は3年は受験学年なので実習生は1・2年の学級へ分担されて、実習を行なっているのが現状です。彼らは、年齢が15~16才で、ちょうど思春期にあたります。

そこで、アドバイスの内容として、母親から受けた内容と重なりますが、次のようなものでした。

- 「先生らしい服装」
- 「清楚、端正を心がける」
- 「品性が感じられるような服装」
- 「実習生という立場で考えた服装」

抽象的な言い方よりも、更に具体的に、生徒の目を気にするように、胸元のあきすぎた服はやめて、衿のある服、透ける服は、よくない、生徒を刺激しないような服、スカート丈

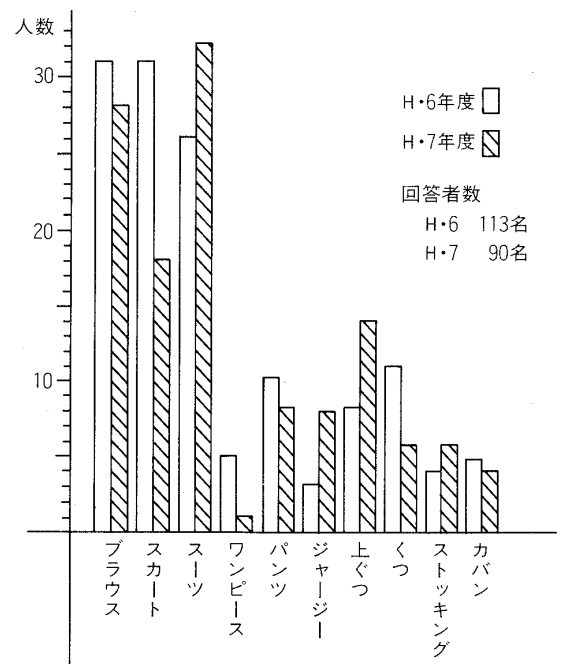
は膝下がよい、長い髪は束ねる、上着はスカートの中へ入れる、ピアスははずす、ジーパンはよくない等でした。

教科によつての服装の違いについて、予想していたのと同じく体育の先生は、ジャージ姿がほとんどで、理科の先生の白衣姿、家庭科の先生が実習時にエプロンを着用、技術の先生がジャージ姿、美術の先生がエプロンスタイルのかっぽう着を着たりという一般的傾向が認められました。

女性の先生の化粧、ヘアースタイル、アクセサリについては、地味で落ち着いた感じにしているほとんどの先生はナチュラルメイクにしていました。長い髪の場合は束ねています。アクセサリは、結婚指輪をしている人がいますがネックレス程度であまり付けません。

次に、教育実習のために身の回りで新調したものを取り上げます。平成6年度と平成7年度の回答結果から比較検討し、数の多いものをグラフに表しました。(図1参照)

図-1 身の回りで新調したもの



他にポロシャツ、キュロットスカート、運動靴、髪止め、白衣、文具品等もありました。平成7年度の場合は、新調した理由も述べてもらうことにしました。その理由について、普段の学生に人気のあるスタイルは、Tシャツにジーンズ、Tシャツにスカートといったラフな格好です。Tシャツからブラウスに替えなければいけないこと、また、スカートの手持ちがミニやロングであるために、ひざ下のちょうどよい丈のスカートを新調する必要があったためと思われる。実習期間が梅雨時から初夏に向っているため、ブラウスとスカートの組合せが多くみられました。

スーツの新調というのは、きちんとした服装、先生らしい服装のイメージからスーツスタイルを考えたためであると思われる。定期的にデパートには、リクルートスーツ売場が設けられていることもあって色は、紺、グレー、ベージュに人気があり、デザインは、テーラードスーツが多いようです。ジャージーは、そうじの時間・部活動への参加に必要なとなったというわけです。ストッキングの新調というのは予想外でした。このことからふだん着用しない学生が多いことがわかりました。

先生らしい服装とはどのようなものか考えなければいけなかったため、頭の先から靴にいたるまで、頭の中に描いた、イメージのスタイルに合わせてそれぞれが、気を使ったことがうかがえます。

〔2〕小学校での教育実習

前項で扱った学生（家政科、英文科）は、中学校教諭2種の免許が習得できるのに対し、本項で扱う学生（児童教育学科の初等教育専攻）は小学校教諭2種と、幼稚園教諭2種の免許が習得できます。初等教育専攻の学生のほとんどが、小学校への教育実習に行き資格を習得しています。そこで、小学校での教育実習についてのアンケート内容は初等教育専攻の学生の回答をもとにしてまとめることに

しました。

小学校へ実習に行った学生へのアンケート結果から実習前のオリエンテーションでのアドバイスの内容は次のようでした。家から学校までの服装は、スーツ、ブラウスにスカートスタイルで、学校では、子どもと共に活動するという点から動きやすい服装でジャージースタイルという回答が圧倒的に多く、先生方の服装を観察した点から見ると、特別な行事、例えば会議、研究会等ではスーツスタイルがみられます。しかし、普段は、男性女性教師共に、ジャージースタイルが多く、ポロシャツにズボン、Tシャツにジャージーといった組合せ等で、中学校の教師の服装と比較するとややラフな格好が多いと思われます。これは中学校に比べると動く度合いが多い点からだと推察されます。実習の為に新調した物も、ブラウス、スカートといった物を新調した人(9.6%)よりジャージーを新調した人(28.8%)が多くみられました。

次に教育実習者に、必要な情報として、教師の服装、態度の「べからず集」(新井他1989)を引用して紹介します。

- ①教師は、スポーツウェアやトレーニングパンツなどで通勤するべからず。
 - ・自家用車通勤は、ついラフな服装で済みます安易さに流される。
 - ・スポーツウェアの常用だけでは、品格が落ちてしまう。
 - ・子どもの敬意や期待にこたえ、教師の仕事の厳しさを考えた服装が大事である。
 - ・通勤途中でも、子どもの家庭の訪問や教育委員会訪問ができるような、きちんとした服装が大事である。
- ②通常の勤務では、ピカピカ洋服、ゴテゴテ化粧をするべからず。
 - ・派手すぎる洋服や化粧は、とかく波風を立てる。
 - ・変化はいいが、過ぎると刺激的で気を散らす。

- ・時には、地震や火事の緊急事態もある。
- ・子どもは、品位と安定の中に温かさを求めるものである。

オリエンテーションでのアドバイスの内容にあったように、通勤する時と、学校での勤務時間の服装にけじめをつけるということは教育上必要だということがわかりました。

〔3〕幼稚園実習について

本項で扱う幼児教育の学生は、全員が幼稚園実習を行なっています。1年次にすでに幼稚園、保育所への実習を経験していることをアンケートの回答後に知りましたが、内容に適切さが欠けていることが反省点になりました。

幼稚園の場合は、オリエンテーションで、服装についてのアドバイスは、中学校、小学校での内容とは違い、より現実的に、動きやすい格好、よごれてもよい服装ということでTシャツにジャージーというスタイルが圧倒的でした。更に、より具体的にTシャツはジャージーの中に入れること、Tシャツは白、ワンポイントまではよい。衿や袖に線の入ったものバックプリントは許可されず、ジャージーの色の指定、靴下の色の指定まである場合もあります。また砂遊び水遊びの時に対応できるよう、短パン・キュロット・サンダルが必需品として必要になったこともわかりました。

次に、実習生への配布資料の例を引用して紹介します。

〈実習の心構え〉

- ・(省略)
- ・実習期間中は、皆さんも保育者です。園児や保護者、地域の人に対しても、良識のある態度で臨んでください。
- ・(省略)
- ・実習中はたいへん疲労します。心身の健康管理に務め、元気に実習を行なっ

てください。

〈持ち物、服装〉

弁当、上靴、下靴、名札、帽子、印鑑、動きやすい服装

〈実務上の留意点〉

- ・保育所の保育方針を尊重し、特に安全保育に留意してください。
- ・非常時の際の注意を受け、適切な行動を取るように心がけてください。
- ・園児に対しては、公平な愛情と親しみを持ち、接してください。
- ・(省略)

以下省略 (小山他 1993)

幼稚園、保育所の場合は、色々な場面から考えても母親の一部分の役割を果たしていると思われます。さらに、集団を相手にしなければなりませんので園児と遊んだり、園児の安全性を確保のするためにも、動きやすい服装が求められていることがわかります。

〔4〕幼稚園教員の30年史

1957年より30年間、幼稚園で勤務されたS先生(76歳)のインタビューを基に幼稚園での園児、先生の服装が時代と共にどう変化してきたのか実在の写真を使って分析してみました。

当初、園児の服装は、私服に白い綿のエプロンを着用していたのが1958年より、スモックを着用となり先生方も同色のスモックを着ていました。この頃、帝人、東レが共同で英国のICIから特許を買い新繊維のテトロンが現われ、スモックもこの製品だと思われます。入学式には、次の日の登園した園児が先生にすぐ馴染むようにスモックを着用し、卒園式は黒のスーツ姿で臨席したそうです。

1965年のスモックは、一般の事務服のデザインといった感じです。1977年、紺色に白のストライプ、ボトムは綿パン又はジーンズ

マイルでした。(柳 1991・林 1987)「ジーンズのファッションは1848年にはじまる……そして西部開拓(1860~1890)によって作業衣、仕事着として、牧場、農園ファッションとなり、実用主義のジーンズに人気が出始めたが、ジーンズのもつ多様な価値観を受け入れる社会が60年代にはまだ成熟していなかった。」ジーンズは1970年代初めに急速に広がり始め、幼稚園の先生にも波及していたものと思われます。

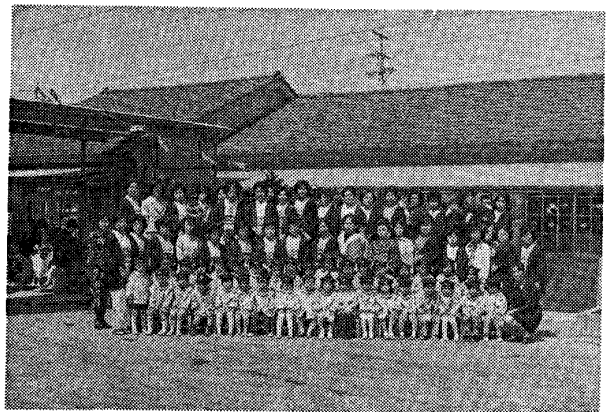
この園では1979年からベージュのスモック夏期間だけは半袖のブルーのスモック、衿はなく、袖口はゴムで締まっていて、後ろボタン明きでパッチポケットといったように、いかにもかわいらしいデザインになりました。退職される年(1987)までこのデザインでしたが、トップはスモック、ボトムはジャージーが多かったそうです。夏にはキュロットスカートになったり、1982年ひなまつりの発表会の時には、黒のスカート、1986年の20周年記念の時には、白のブラウスに黒のスカートで揃え、その場に合ったスタイルに変化したことがわかりました。

また、入園式の母親の服装にも注目したいと思います。1975年から1985年迄の10年間の和服から洋服への移り変わりが、参考資料の写真によってもわかりますが、1975年、37人中5人(86.5%)が洋服で、黒い羽織の姿が目立ちます。この頃、フォーマルな装いは和服という風潮が定着化していました。1975年からの変化の様子は次の表3のように洋服への移行がわかります。

表3 入園式の母親の服装の変化

年	調査人数	和服数	%
1975	37	32	86.5
1978	21	13	61.9
1979	25	12	48.0
1982	23	3	13.0
1984	20	3	15.0
1985	32	3	9.4
1991	20	0	0

「写真1」



「写真2」



現在ではフォーマルウェアも黒からカラーフォーマルが多くなり、入園式、卒園式の装いも普段の洋服に、コサージュやネックレスを付けるといった工夫をしたりして、特に決まった服装があるわけではないことがわかりました。

ジーンズが日本で日常的に着用されるようになるのは1960年から10年後でした。1970年代は変革の時と捉えることができ、フォーマルウェアとしての和服から洋服への移り変わりにも10年間という長い年月がかかったということがわかりました。服装というのは、実用的な素材やデザインなどが情報として早くキャッチされていても現実的に着用されるまでにははずいぶん分時間が必要なのだと思います。

〔5〕小学校教員の35年史

1955年より35年間小学校での教員生活を送られたN先生(60歳)の生活を思い出していただき、服装をとおして先生観を考察してみました。

教職に就かれた当時は、教職者として服装への意識は、品位があり、華美にならぬよう清楚な服装で登校しなければという思いであずき色のスーツに黒いバックで出掛けられたそうです。しかし、その学校は農村にあったため、PTAの時の保護者の服装は農作業衣や紺の婦人会の制服か、かすり生地で作ったモンペスタイルで、その頃の子どもは、毎日着替える教師をおしゃれのあこがれの存在として見ていたようでした。先生の立場としては保護者とのズレを感じられたそうです。そういった環境の中で服装の理念として、基調色は、紺、白、グレー、グリーンで無地。デザインは現在の様に車社会でなく、自転車に乗って登校するため、フレアスカートに、男仕立てのブレザーを着用されたそうです。先生らしさにこだわり、村の人の目を意識した色選びなど今よりもより強く意識されていたことがわかります。

岐阜市郊外の学校へ転任(1959)されてからは、その学校での校長先生の自由意識の影響で化粧を折々するようになりました。服装もその時の流行を考え、色に変化を求め黄、うす紫、ピンク等のブラウスを多く着用されたそうです。その後、市内の学校へ転任された頃には、ネックレスや指輪の装飾品についても考える様になったそうです。35年間の時代の移り変りは地域社会とのかかわりが大きかったことがうかがえます。

〔6〕理想像と実態について

以上に見てきたような実際の教育現場での実情や経験から服装の在り方と、理想とされる教師像に重ね合わされる服装の在り方とのような関係があるのでしょうか。理想像の一例として次のようなものがあります。

(新井他 1989)

教職に就くということは、それまでの自分の立場から大きく転換するものである。教師としての仕事をこなすには、見られる立場にあることを認識する必要がある。それは取り立てて堅苦しく、窮屈な生活を意味するものではない。教師は、明朗快活でのびのびした態度が大事な資質であり、言うなれば洗練された社会人であり、教師として児童、父母の信頼、期待にこたえる存在であることが求められるのである。教師の服装も児童に対する態度もその重要な要素であることを自覚し、必要な配慮をしたい。

法律の規定

直接的に服装を規定している法律はない。しかし、あまりに派手すぎるレジャー着や外出着で物議を醸したり、授業活動が十分にできない問題など、内容によっては地方公務員法33条の「信用失墜行為の禁止」や同法35条の「職務に専念する義務」を問われるかもしれない。また、各学校でつくる「学校規定」に定めている場合もある。

品性について

人を教え導く教師の指導は、子どもに尊敬され、時に憧れをもたれてなされるのが理想である。また間接的には、親や地域社会の大きな期待をも受けている。「教師は子どもにとって最大の環境である」と言われるように、子どもの人間形成を責務とするとき、教師に品位、品格が求められるのは当然である。その服装はキリリとして清潔感に溢れ、安定と親しみをもてるものでありたい。

活動性について

日常の授業は、活動性が望まれる。教師も、子どもとともに学ぶ姿勢をもって、十分な活動ができる服装が大事である。

幼稚園、小学校、中学校で勤務されている先生の服装に違いがあります。幼稚園や保育園には、園児の制服があると同時に先生の服装にはある程度の規定があると思います。一方、小学校・中学校の先生は特に規定があるわけではありません。そこで、先生にふさわしい服装を考えるうえで、品性と活動性が問

題とされるわけです。確かにアンケート結果に見られたように、きちんとした(キリリとした)、清潔感のある、落ち着いた(安定した)服が現実にも求められていることがわかります。また、活動性についても多くの注意が払われています。しかし、理想像でいう親しみを持てる服装は現在どのように実践されているのでしょうか。アンケート結果ではこの点については明確なものが出てきませんでした。おそらく、この点は今後の先生観と服装の関係で特に重要な点となるのではないかと思います。

以上のように、先生にふさわしい服装というのは、品性と活動性の両面が求められています。品性とは、道徳的な面から見られるものであり、活動性というものは機能的な面を重視されるものであります。今後、二面とも時代と共に推移していくものと思われれます。

〔7〕 今後の先生観と服装の在り方

先生の服装について、私自身も子どものころを思い出してみると児童・生徒には大きく影響していたと思います。家庭で働く人(母親)は、簡単な服装で過ごしているが、外での仕事を持っている人(この場合は先生を対象にしている)は、その場に応じた服装を考えている。しかしながら現在、共働きの家庭が多くなり、家庭での話し合いも多く持たれ職業による服装の違いは顕著に現われてなくなっています。

これからの先生は、今までの先生らしさとは大きく変化し、より親しみやすい人格を表すようになってくると考えられます。

たとえば、先生と子どもの関係がいままでより身近に接するようになるのではないかと考えられます。

これからの先生の服装がどのようになっていくのか。最近話題になっている「カジュアルデー」が企業や公務員にまで広がってきましたがカジュアルな服装がどの程度受け入れられていくのか、検討が必要とされると思

ます。

今後の課題として、フォーマルウェア・カジュアルウェア・制服(ユニフォーム)について移り変りとの関連について追跡を試みる必要があると思います。

特に、数多く現場の先生からの聞き取り調査を実施すると共に、生徒側から見た先生の服装についての考えを取り入れた研究を図っていけば幅広い研究の深まりを求めていけるものと考えます。

まとめ

この研究では先生の服装の実態を知るためにアンケート調査を中心に、また、過去40年間にわたる変化を幼稚園、小学校教員からのインタビューをもとにして服装の変化をあきらかにした。さらに、実情と理想像の間の類似点、相違点についても検討をしました。

今後の服装の在り方が先生観の変化とともに、どのようになっていくのかを考察しました。広い世界での服装の変化が先生観の変化を表しているというよりも、先生観の変化が服装の変化を導いているということがこの研究から言えると思います。

最後に、服装によって、人の心の持ち方が変わり、服装によって周りの雰囲気が変わるとも言われますが、学校という一世界のみの追跡によっても先生の服装の変化を強く感じた次第です。

この研究にあたり、ご理解・ご支援いただきました学園長 神谷みゑ子先生、また、親身になってきめ細かくご指導いただきました奈良女子大学助教授 佐野敏行先生に心から感謝の意を表します。

引用文献

- 新井 郁男・若井 彌一
柳下 昭夫・杉山 正一 1989
「教師実務の便利辞典」
学習研究社 31・32頁
- 小山 望・川勝 泰介
柴崎 正行・鈴木政次郎 1993
「教育・保育実習の手引き」
ひかりのくに(株) 69頁
- 柳 洋子 1991
「キーワードでみるファッション化社会史」
(株)ぎょうせい 227頁
- 林 邦雄 1987
「戦後ファッション盛衰史」
(株)源流社 156頁
- 杉山 正一・杉山 愛子 1975
「婦人教師の仕事」
日本文化科学社 166頁
一家政学科 被服一